

令和5年3月17日

令和4年度 特別の教育課程の実施状況等について

都・道・府・ <b>県</b>		
学 校 名	管理機関名	設置者の別
三木市立口吉川小学校	三木市教育委員会	国・ <b>公</b> ・私

1. 特別の教育課程の内容

(1) 特別の教育課程の概要

小学校第1・2学年の「生活科」6時間を削減して、「外国語活動」に充てる。

(2) 学校又は地域の特色を生かした特別の教育課程を編成して教育を実施する必要性

三木市においては、次代を担う子どもたちに、ふるさとの歴史や文化、とりわけ伝統産業である三木金物の素晴らしさを伝え、我がまち三木市を愛する豊かな心を育むとともに、ものづくりを通じて自ら考え、生きる力を育成してきた。これまで取り組んできた「ふるさと教育」や「心の教育」を基盤として、今後のグローバル化に対応できる子どもたちを育むため、小学校低学年から「聞く」「話す」体験を中心とした「外国語活動」に取り組む。

(3) 特別の教育課程に基づく教育の実施状況

ア 実施体制

外国語活動担当者を中心に、組織的に外国語活動に取り組む。また各学年の学習内容を考慮し、市で統一した外国語活動の年間カリキュラムモデル例をもとに、系統的な外国語活動となるよう学習カリキュラム等を立案する。各校の外国語担当者で組織する外国語研修部会は、研究授業や実践事例に関する協議などを通して、各校の取組を交流し市内全体で交流するとともに、検証しながらよりよいものとする取組を進めている。

評価については、各学校における児童・生徒の外国語活動の振り返り結果から授業改善に取り組む。

イ 指導計画及び授業の内容

第1・2学年では英語にふれながら表現を楽しむことをめざす。ALTや友達と簡単な英語で気持ちの良いあいさつをしたり、ゲームや歌を歌うなどの活動において、簡単な英単語にふれ、「話す」「聞く」ことから単語を習得したりする。また、特別活動及び他教科・学級活動を活用して、色や数を英語で表現したり、ハロウィン・クリスマスなどの季節の行事で用いられる英語の表現を学んだりする。

特に低学年という発達段階を考慮し、授業だけでなく、休み時間や給食の時間、清

掃時間などにALTとともに時間を過ごし、少しでも英語を身近に感じることができるよう工夫する。

#### (4) 情報提供の状況

保護者や地域の方々に参加いただく学校行事において、自校担当のALTを紹介する。また、外国語活動の様子をホームページで紹介する。

#### (5) 特例の適用開始日及び、取組の期間

- ・ 特例の適用開始日 : 平成28年4月1日
- ・ 変更した特例の適用開始日 : 令和2年4月1日
- ・ 取組の終期 : 令和5年3月31日

### 2. 特別の教育課程の実施状況に関する把握・検証結果

#### (1) 特別の教育課程編成・実施計画に基づく教育の実施状況

- 計画通り実施できている
- ・ 一部、計画通り実施できていない
- ・ ほとんど計画通り実施できていない

#### (2) 保護者及び地域住民その他の関係者に対する情報提供の状況

- 実施している
- ・ 実施していない

### 3. 実施の効果及び課題

#### (1) 特別の教育課程の編成・実施により達成を目指している学校の教育目標との関係

本校の学校教育目標は、「学びの楽しさ あふれる子の育成」である。子どもたちが自らの課題に対して全力で取り組み、自分の思いや考えを語り、豊かな心で自立して仲間と協働しながら主体的に課題解決を図り、それを成し遂げた自信をさらなる意欲につなげて「学びの楽しさに満ちた魅力ある学校の創造」を目指している。そこで、教科指導の重点として、外国語活動では、言語や文化について体験的に理解を深めるとともに、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図る。また、外国語の音声や基本的な表現に慣れ親しませながら、コミュニケーション能力の素地を養う。

#### (2) 実施の効果

小学校という発達段階は、新しい言語を急速に吸収することができる年代である。

特に1・2年生はその点が顕著であり、そうした年代において、歌やゲーム等で英語を発話したり、聞いたりすることによって、自然な発音やアクセントの練習を早い段階から行うことができた。また、英語でのあいさつや簡単な表現にチャレンジするために、「話す」「聞く」体験により簡単な単語を身に付けることで、英語への抵抗感を小さくすることができた。ジョリーフォニックスの学習では、日本語と同じ方法で音と文字を学習するため、国語の授業で日本語（母語）の読み書きを一度経験している児童にとって英単語の習得は比較的容易だったのではないかと考える。そして、フォニックスや簡単な英単語の学習を通して日本語との音声の違いに慣れ親しませることで、中学年の外国語活動への接続もできたように思う。担任もALTと協力して外国語活動を進めることで、教材の効果的な使用方法や、歌やゲームの指導方法、キーワードの使い方を工夫するなど、外国語活動の指導力が高まった。

#### 4. 課題の改善のための取組の方向性

三木市全体で特別な教育課程を成しているため、三木市外国語研修部会では、授業グループとフォニックスグループに分かれて、それぞれの課題の解決取り組んでいる。授業グループでは、スモールトークやパフォーマンス評価、クラスルームイングリッシュといった外国語、外国語活動の基本となる指導方法や授業の要素の研修をしている。フォニックスグループでは、英語の読み書きの指導として、ジョリーフォニックスの指導方法や効果について、研修を行い、教育センター主催の研究員グループ発表でもその成果を発表した。

課題としては、パフォーマンス評価に対する評価方法や評価者のスキルの上達が挙げられる。タブレットの普及により、教師はもちろん、児童同士がそれぞれのパフォーマンスやコミュニケーションの様子を記録として残すことができるようになったため、評価のエビデンスを示すことは容易になった。一方で、コミュニケーションはその場に瞬時の判断や評価を必要とされる場合があるため、指導者が英語を使ったコミュニケーションやその場ですぐに児童にフィードバックできるようスキルの向上を図るとともに、より専門的な技術をもった指導者の育成が望まれる。